



「ひろがる つながる 全国水質調査」 身近な水環境の全国一斉調査

- 笑顔でつなぐゆたかな水辺



2017.8.2

みずとみどり研究会
全国水環境マップ実行委員会
事務局 佐山 公一

1

安全・安心な水のために 市民ができること

以前は川の水が臭く、とても近づけなかつた…



私たちの生活と関係が深い！



身近な水辺を調べる（全国一斉調査への参加）



水環境の現状を知り、関心が高まる

3



「ひろがる つながる 全国水質調査」 身近な水環境の全国一斉調査



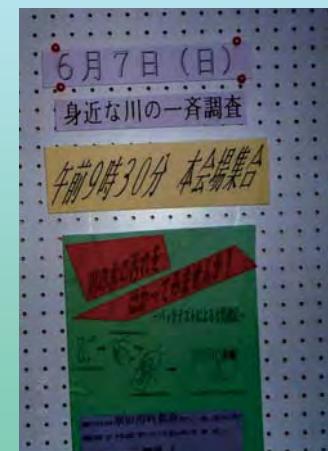
全国へ 全国ネットワーク

市民・行政・企業 市民・行政(河川・下水道)・企業
継続調査で世代もつながる

2

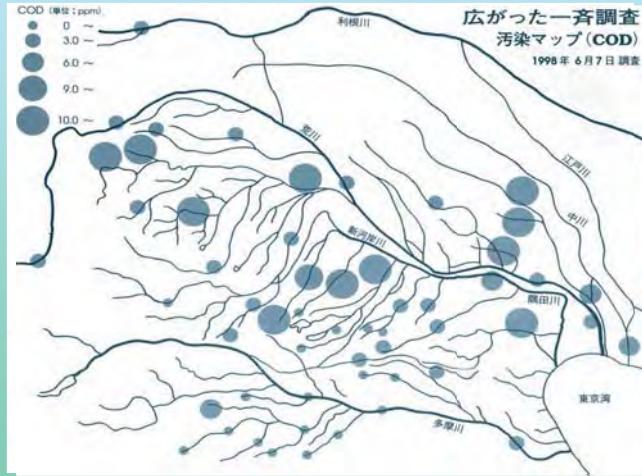
身近な川の一斉調査

- 野川、浅川など多摩川水系から始まった(1989年)



4

多摩川水系から荒川水系、 さらに全国河川へ



汚染マップにより結果を表示(COD)

5

身近な水環境の全国一斉調査 一目的と意義 (2004年より)

- ・ 身近な水環境を自ら調べ、実態をすぐに知ることができる
- ・ 統一したマニュアルに基づき調査するので精度が向上し、結果を相互に比較できる
- ・ 水の汚れの原因を考えるきっかけとなる
- ・ 水環境の保全・修復のための実践活動に結びつけることができる
- ・ 子どもたちの参加により、将来に活動を引き継ぐことができる

7

身近な水環境の全国一斉調査 への経緯

1980年代 地域の水辺の水質調査



1989年 身近な川の一斉調査



2004年 身近な水環境の全国一斉調査

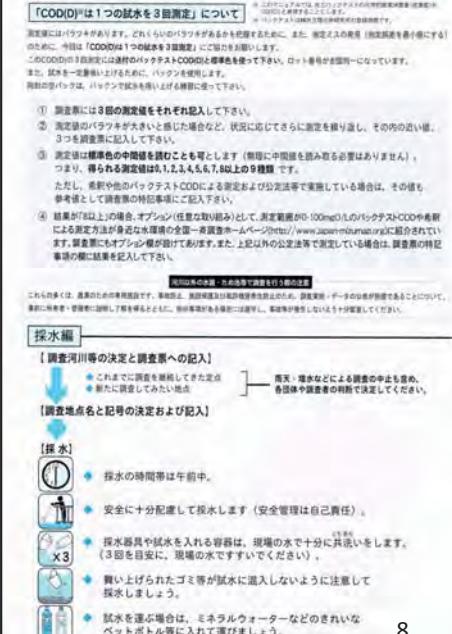
6

身近な水環境の全国一斉調査 「笑顔でつなぐゆたかな水辺」

詳細マニュアル



身近な水環境の全国一斉調査ハンディマニュアル



8

調査用 キット

水環境のCOD調査キット 使用法

取扱説明書の内容を適切に読み取って操作してください。

パックテスト(COD) (D)	本液濃度…3.本
標準液	COD(底濃度)…1.液
試験用カートリッジ	本液濃度…1.液
標準液カートリッジ	本液濃度…1.液
標準液カートリッジ(別バッケージ)	本液濃度…1.液
使用説明(本体)	1.液
使用説明(追加)	1.液

COD (Chemical Oxygen Demand) とは

COD 化学的酸素需要量は、試料に強化剤(過マンガ硝酸など)を加えて一夜で微生物で底液せずに、その中の微生物が酸化・分解によって消費される酸化力の量を計る測定方法です。

「川や湖のCODが高い」ということは…

水中の有機物が増加するとときに川や湖の中の微生物が消費活動が強くなる傾向につながります。また微生物が死んで、生息地のバランスが崩れ、川や湖本来の浄化能力が失われる可能性があります。

CODの高い川や湖で育まれる有機物の多くは、生活排水でしているところからかわっています。川や湖、湖水のCODは測定上別の測定を実施している場合があります。

一般的に、水の有機物の量を示す指標とされています。

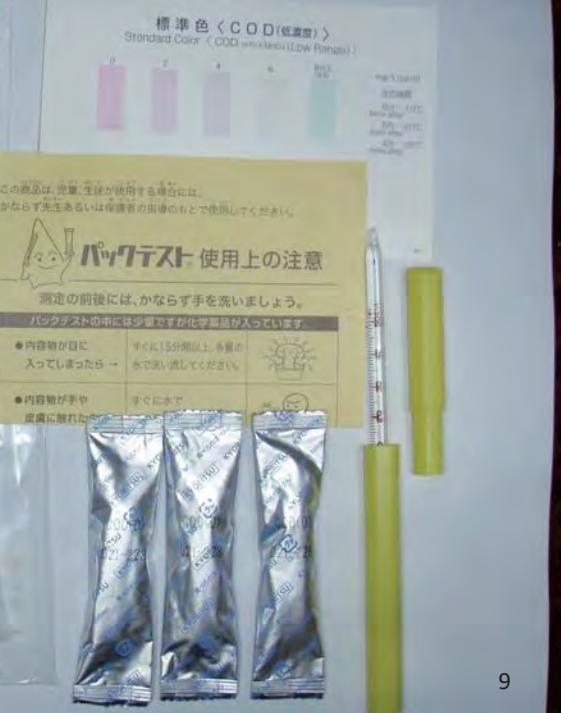
水環境のCOD 調査キット

規格品番 ハリス社製

型番 MK-COD(D)

販売年 2013.4

ロット番号 041202



9

パックテストで三回測定



10

温度の測定風景 (千葉県)



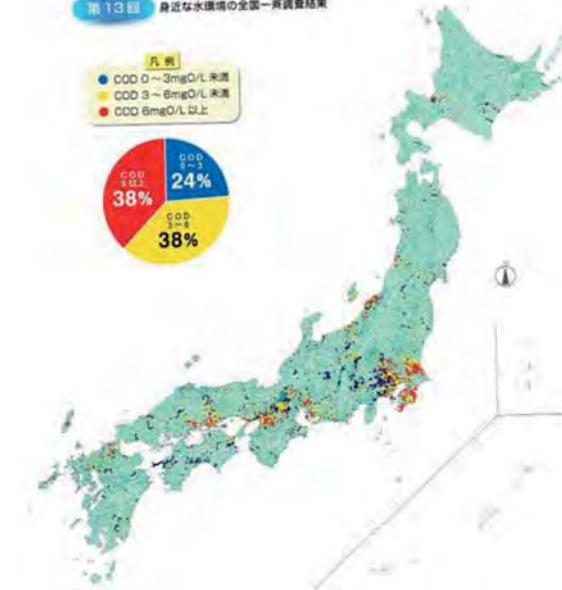
パックテストの測定風景
(滋賀県)

11

2016全国水環境マップ

第13回 身近な水環境の全国一斉調査結果

- 凡例
- COD 0 ~ 3mg/L未満
- COD 3 ~ 6mg/L未満
- COD 6mg/L以上



北海道地方



沖縄地方



西表島・石垣島

12

調査者・調査地点情報	
調査者	
調査河川名称	
調査地点情報	
都道府県・市町村名	
採水月日	
時刻・天候	
前日の天候	
採水時の現地気温	
採水時の現地水温	
測定時の試水水温	
測定値	1回目
	2回目
	3回目
その他	
調査に関する所感など 軽い気持ちで応募しましたが、子 地域の河川への関心	



13



14

うつぼ木小学校
(2010年・佐賀県)
←巣木川水質調査

桑袋ビオトープ公園
(2006年・東京都)
3河川の水質調査結果比較→

調査に参加した市民からのコメント

- 調査地点への想い
- 水質、水量など
- 生き物について
- 周囲のごみの様子
- 下水(生活排水)について

新田環境みらいの会 (群馬県) 調査の様子について 報告事例

第8回・身近な水環境全国一斉調査

期 日 6月11日(土)
開 催 地 所 太田市新田勤労会館(大会議室)

時 間 9時から12時

NPO法人「新田環境みらいの会」では、昨年に引き続き今半も太田市内や近郊の、湧水池や河川の水調査を行いました。この時期全国一斉に行われる行事で、群馬県内での参加は、当会を含めて3団体です。当月は梅雨時期で雨が心配された一日でしたが、調査地のサンブル振興町では雨も降ってくれたようで無事調査できました。特に心配されたのは、同時に開催の「生駒小学校湧水池講師スクール」の生徒のサンプル採取とバックテストでしたが、栗原指導員のもと、みんな楽しんで調査を行っていました。



土壤スクールの生徒さんの、水原水サンプル採取
今年は雨が降らなくて困ったが、今年は行事もなく無事調査する木を、名入り
のペットボトルに採取できました。



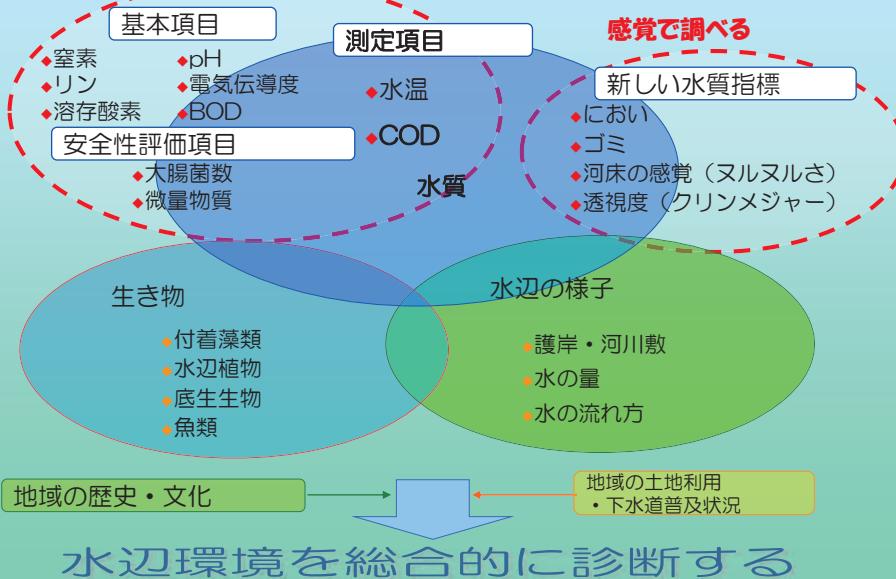
土壤スクールの子供たち、矢太神宿の湧水を採取して
温度測定の後に、水の冷たさを各自が、手で感じて
楽しんでいました。

15

16

・調べる・身近な水辺

科学的に調べる



17

100年の眼で調査を継続する

調査の開始 → 10年間、継続

継続することの意義を理解

新しい視点を加え、100年の眼でさらに継続・発展

そのために、環境への関心を持続し、

次世代へ環境や調査をひきつぐ「人」と「しくみ」

18

本調査では

市民環境科学

小倉実行委員長の考える 市民環境科学

市民が身近な環境を自ら調べ、得られた結果を整理し実態を明らかにする。

それらの活動を通して、身近な環境から地球規模の環境まで広く考え、問題解決のための実践活動にむすびつけること

市民環境科学への招待
表紙(2003年)



19

ご静聴 ありがとうございました

「100年の眼」で調査を継続していきます

20